

宝生会 月並能

平成三十一年三月十日（日）

開演 十四時

開場 十三時十五分

於 宝生能楽堂

シテ野月 聡

春日竜神

ワキ高井 松男

大鼓柿原 光博 太鼓小寺真佐人
小鼓森澤 勇司 笛 槻宅 聡

ワキツレ工藤 和哉

” 則久 英志

間上杉 啓太

後見

田崎 隆三
藤井 雅之

地謡

澤田 宏司 東川 光夫
高橋 憲正 宝生 和英
水上 優 金井 雄資
大友 順 辰巳満次郎

演目の解説

能「春日竜神」

（かすがりゆうじん）

梅の尾の明恵上人は唐に渡り仏跡を尋ねる前に、暇乞いに春日明神にやつて来ます。そこに宮守の老人が現れ、釈迦の在世中であればともかく、今では春日のお山こそ靈鷲山であると言ひ、入唐の必要などないと上人を説得して、もし約束してくれるなら奇瑞を見せようと去つて行きます。上人が待つていると、大地を揺るがして竜神が現れ、さらに上人に入唐渡天を止めるように請願し、去つて行きます。

狂言「酢薑」（すはじかみ）

津の国の薑（古くは山椒のこと）売りが都に上り商売をしようとする時、和泉の堺の酢売りがやつて来て、目の前で酢を売り始めます。互いに系図を言い自慢し合いますがどちらも譲らず、それぞれの商売物「カラい」「スっぱい」によそえ、秀句（しゃれ）で勝負することになります。ところが秀句を言い合つては二人で笑いあい、いつまでたつても埒があかないので…。

能「桜川舞入」（さくらがわ）

人商人の男は桜子という子供を買い取つたが、その代金と文を母に届けて貰いたいと頼まれて、桜の馬場に赴きます。文を読んだ母が慌てて止めようとしたのですが、人商人の姿はもうそこにはありませんでした。嘆き悲しむ母は文の続きを読むと、桜子を探す為に東へ下ります。常陸国の磯辺寺に留まる桜子が僧と共に桜の名所桜川で花見をしている所に、美しい四つ手綱を肩に母が通りかかります。母は僧と言葉を交わし、桜子のことを探していると伝えると、僧は桜子を引き合わせ、二人は再会を喜び、帰つて行きます。小書「舞入」は後半のイロエのところ、「中之舞」が舞われます。当日の番組中、他の曲に舞がない時などに付く小書です。

15:10

酔 薑

野村 萬

野村万之丞

へ 休憩 十五分

15:45

桜 川

シテ大坪喜美雄
子方藪 俊太朗

舞入

ワキ宝生 欣哉

大鼓柿原 崇志
小鼓大倉源次郎 笛 一噌 隆之

ワキツレ野口 能弘

” 野口 琢弘

” 吉田 祐一

後見

高橋 章
今井 泰行

地謡

和久莊太郎 武田 孝史
小倉伸二郎 亀井 保雄
小倉健太郎 中村孝太郎
山内 崇生 佐野 登

次回予告

平成三十一年四月十四日（日）

午後二時始

嵐 山 朝倉 俊樹

山 姥 佐野 由於

文化庁文化芸術振興費補助金
（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会



終演予定 十七時十分頃